

第 100 回 2019 年 2 月投資家アンケート調査結果

アンケート調査にご協力下さりました皆様

今年 2 月に実施致しましたアンケート調査にご回答下さり誠にありがとうございます。
このたび調査結果をまとめましたのでお送りさせていただきます。ご笑覧賜れましたら幸
いです。今後もアンケート調査にご協力いただけるようお願い申し上げます。

2019 年 4 月 3 日 青山学院大学 経営学部 教授 亀坂安紀子
明海大学 経済学部 教授 新井啓

調査の概要

今回の調査では、2 月 4 日に 361 通の調査票を発送した。送付先の内訳は、銀行・生損保
78 通、証券会社 112 通、投資信託・投資顧問 132 通、その他 39 通である。2 月 28 日までに
返送された 32 通に基づいて本アンケートの結果を紹介する。回答率は 8.9%、平均回答日は
2 月 15 日であった。過去 4 回のアンケートの回収状況は以下の通りである。

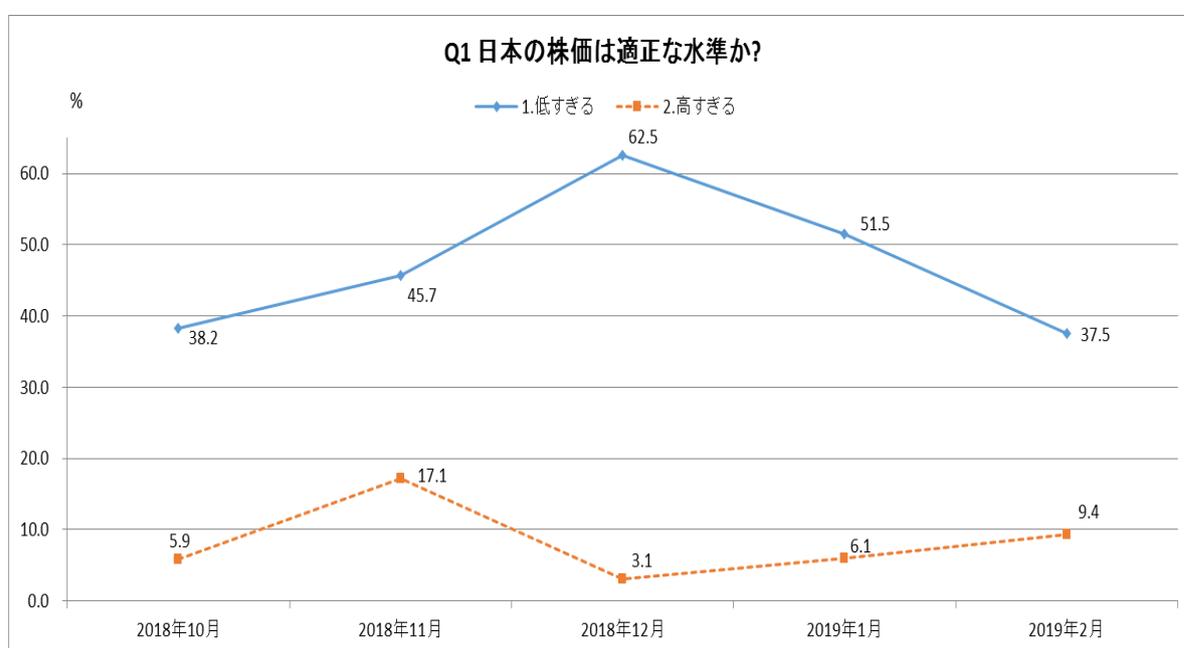
発送日	発送数	回答数	回答率
2018/10/3	366	34	9.3%
2018/11/6	370	35	9.5%
2018/12/3	367	32	8.7%
2019/1/7	364	33	9.1%
2019/2/4	361	32	8.9%

定期調査の質問の主要な結果

1. 日本の株価を企業のファンダメンタルズと比較してどう評価するか

問1. 「日本の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる
2. 高すぎる
3. ほぼ正しく評価されている
4. わからない



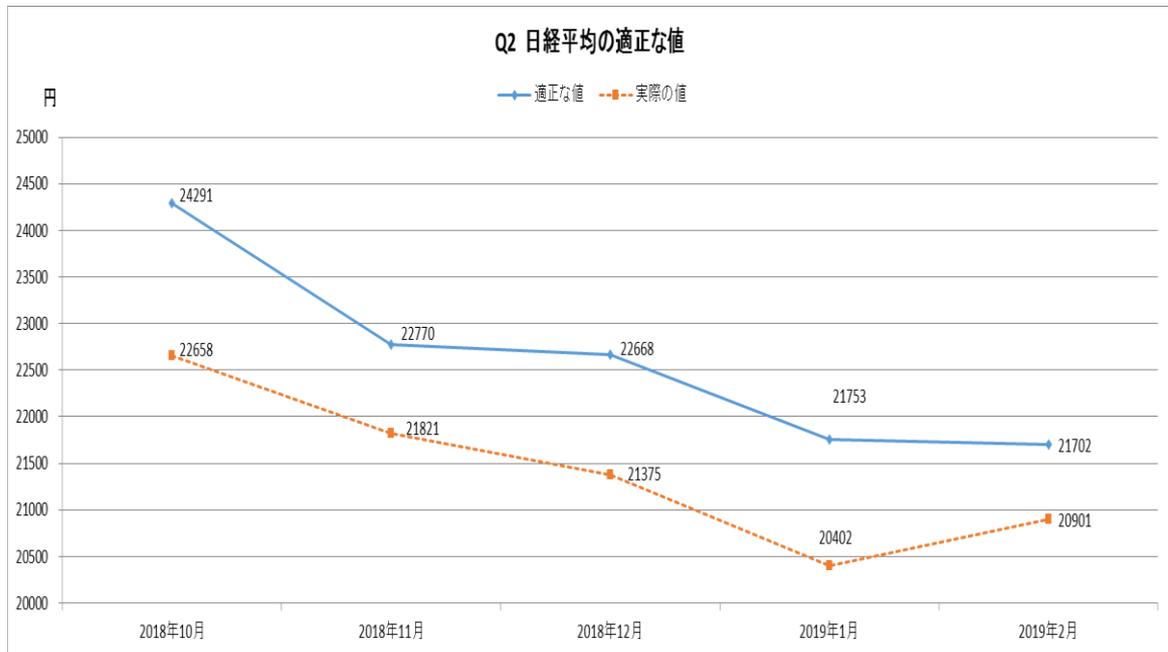
「1.低すぎる」の回答割合は、前回調査から低下して 37.5%になった。

「2.高すぎる」の回答割合は前回調査から若干高まり 9.4%になった。

今回の調査においても「1.低すぎる」の回答割合が「2.高すぎる」の回答割合を上回っていたが、その乖離幅は縮小した。

「3.ほぼ正しく評価されている」の回答割合は 50.0%(前回調査では 42.4%)で、前回調査から高まっていた。

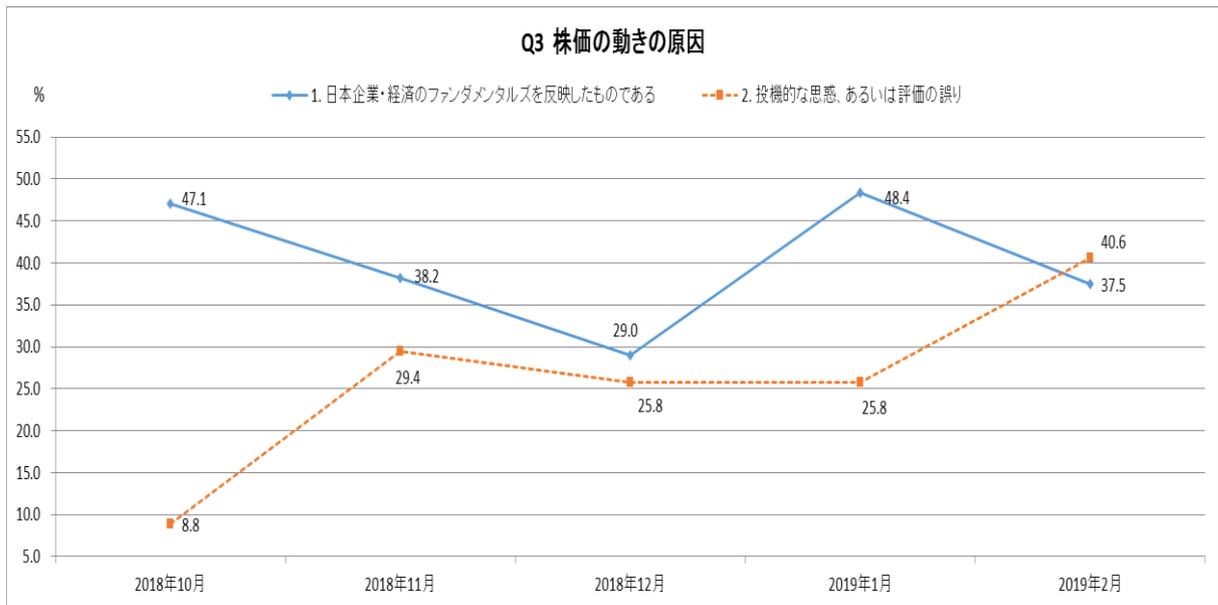
問2.「日本の株価（日経平均）は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



日経平均株価の「適正な値」は、前回の調査とほぼ同じ値であった。
平均回答日における日経平均株価の「実際の値」は前回調査から上昇していた。
今回の調査においても前回の調査と同様に「適正な値」が「実際の値」を上回っていた。

問3. 「過去6ヶ月間の日本の株価の趨勢的変化の要因はなんだとお思いですか。」

1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである
2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り
3. その他
4. わからない。



「1.日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである」の回答割合は前回調査から低下して、37.5%になった。

「2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り」の回答割合は、前回の調査から大きく高まり、40.6%になった。

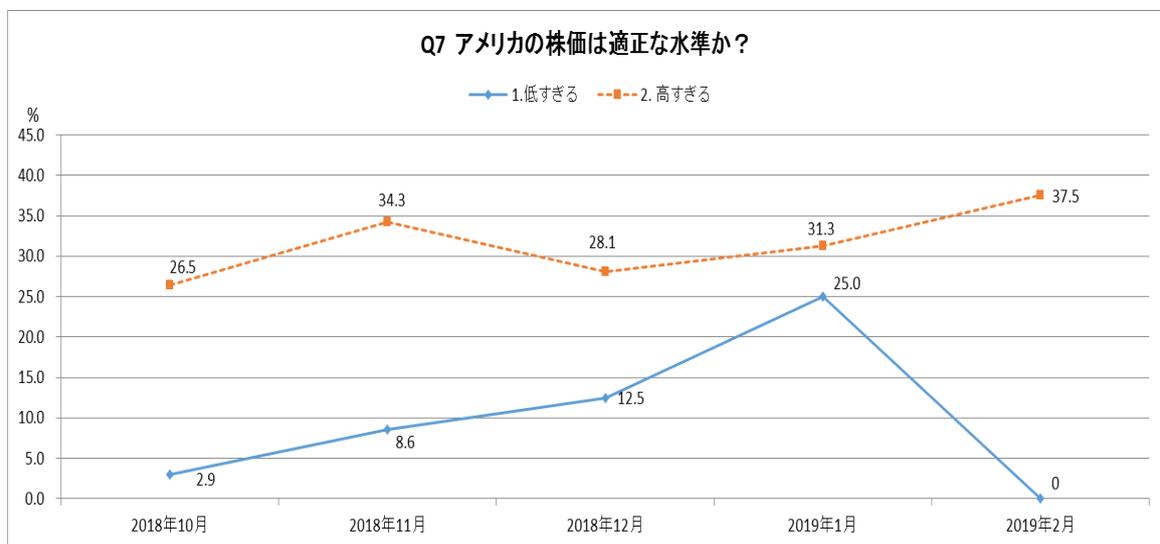
「3.その他」を選択した回答者の割合は18.8%(前回22.6%)であり、前回調査から低下していた。

「3.その他」の掲載可能とされた具体的コメントとして、「米国株の乱高下に翻弄された。最近是中国の経済停滞により、日本企業の受注動向の悪化。」等のコメントをいただいた。

2. ファンダメンタルズと比較してアメリカの株価をどう評価するか

問 7. 「アメリカの株価は企業の実力(ファンダメンタルズ)あるいは合理的な投資の価値にくらべて、」

1. 低すぎる
2. 高すぎる
3. ほぼ正しく評価されている
4. わからない

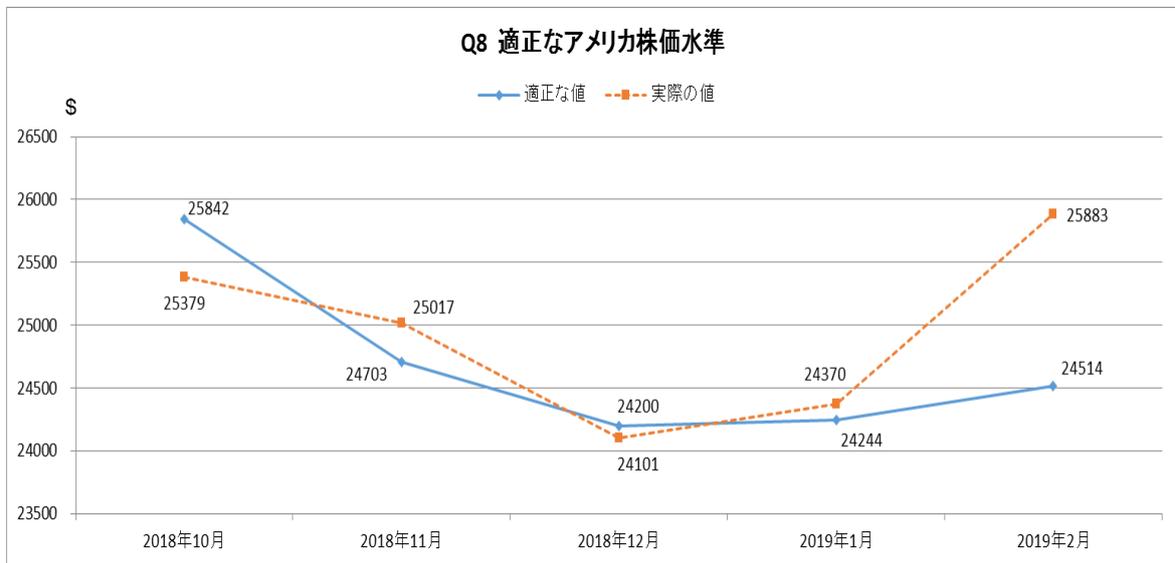


今回の調査では「2.高すぎる」の回答割合は前回の調査から高まり 37.5%になった。

「1.低すぎる」との回答はなかった。

「3. ほぼ正しく評価されている」の回答割合は 59.4%（前回調査では 43.8%）であり、半数を超えていた。

問 8. 「アメリカの株価 (NY ダウ) は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



平均回答日における NY ダウの「実際の値」は、前回の調査と比較すると大きく上昇していた。

NY ダウの「適正な値」は前回調査と比較して若干上方修正されていた。今回の調査では、「実際の値」が「適正な値」を大きく上回っていた。

3. 株価の将来予想

問4では回答者の株価予想について尋ねている。

問4. 「日米の株価が、将来どう変化すると予想されているか、現在を基準として%でお答えください。(上昇を予想される場合には+ (プラス) を、下降を予想される場合は- (マイナス) を、数値の前におつけください。)」

株価の先行き予想についての今回の調査結果は以下の表のとおりである。(単位、%)

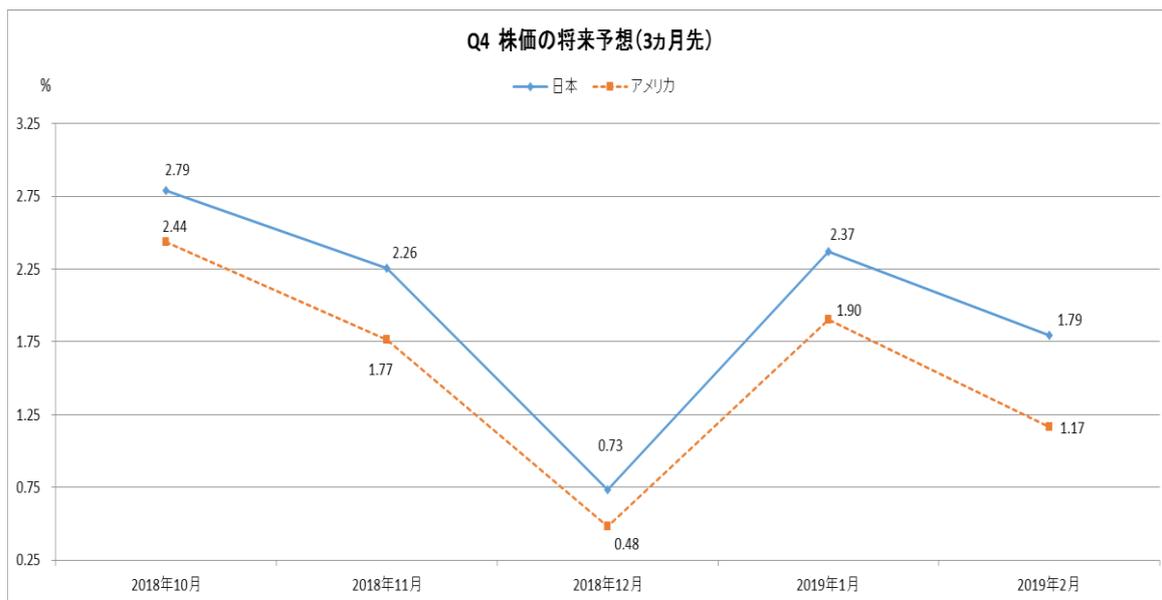
	日経平均株価 予想1ヶ月先	日経平均株価 予想3ヶ月先	日経平均株価 予想6ヶ月先	日経平均株価 予想1年先	日経平均株価 予想10年先
平均	0.33	1.79	2.63	4.39	26.11
標準偏差	3.18	5.92	8.03	9.89	27.23
最小値	-5	-10	-8	-10	-25
最大値	10	20	30	35	100
回答数	29	29	30	31	27
	NYダウ 予想1ヶ月先	NYダウ 予想3ヶ月先	NYダウ 予想6ヶ月先	NYダウ 予想1年先	NYダウ 予想10年先
平均	0.20	1.17	1.89	3.83	33.73
標準偏差	3.07	5.21	6.13	7.89	27.79
最小値	-5	-8	-10	-10	-1
最大値	10	20	20	30	100
回答数	27	27	28	29	26

日経平均株価については、1ヵ月先、3ヶ月先、10年先の予想変化率の平均値は前回調査から下方修正されていた。6ヶ月先と1年先の予想変化率の平均値は上方修正されていた。

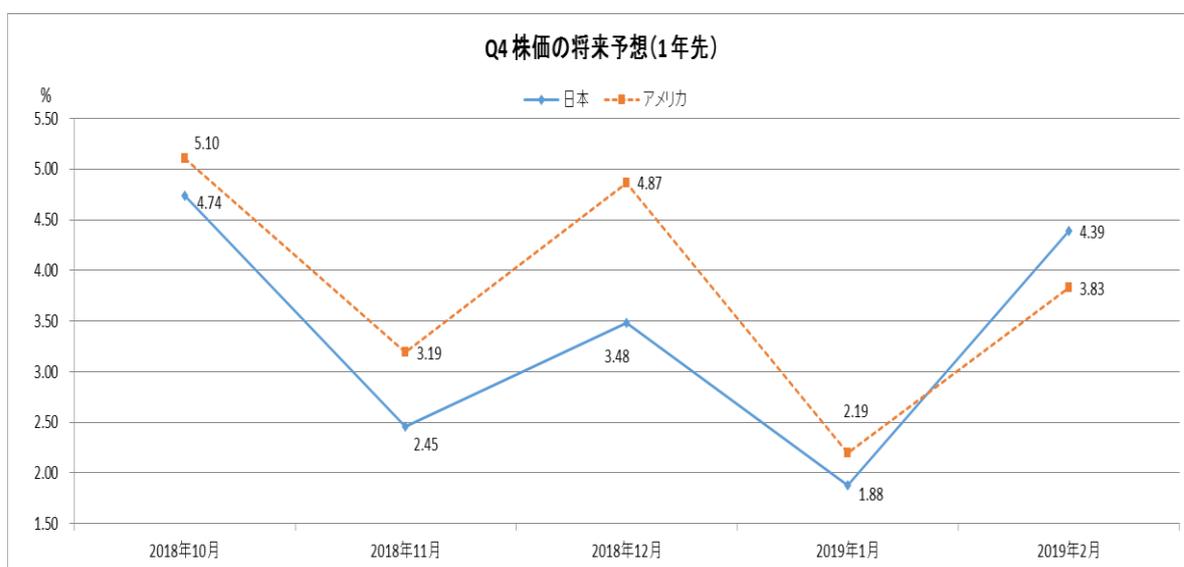
NYダウについては、1ヵ月先、3ヶ月先、6ヶ月先、10年先の予想変化率の平均値は下方修正されていた。1年先の予想変化率の平均値は上方修正されていた。

特に株価の3ヶ月先の予想変化率の平均値に注目すると、以下のグラフの通り NY ダウについても日経平均株価についても、前回の調査から下方修正されていた。

また、今回の調査においても、日経平均株価の予想変化率の平均値が NY ダウのそれを上回っていた。

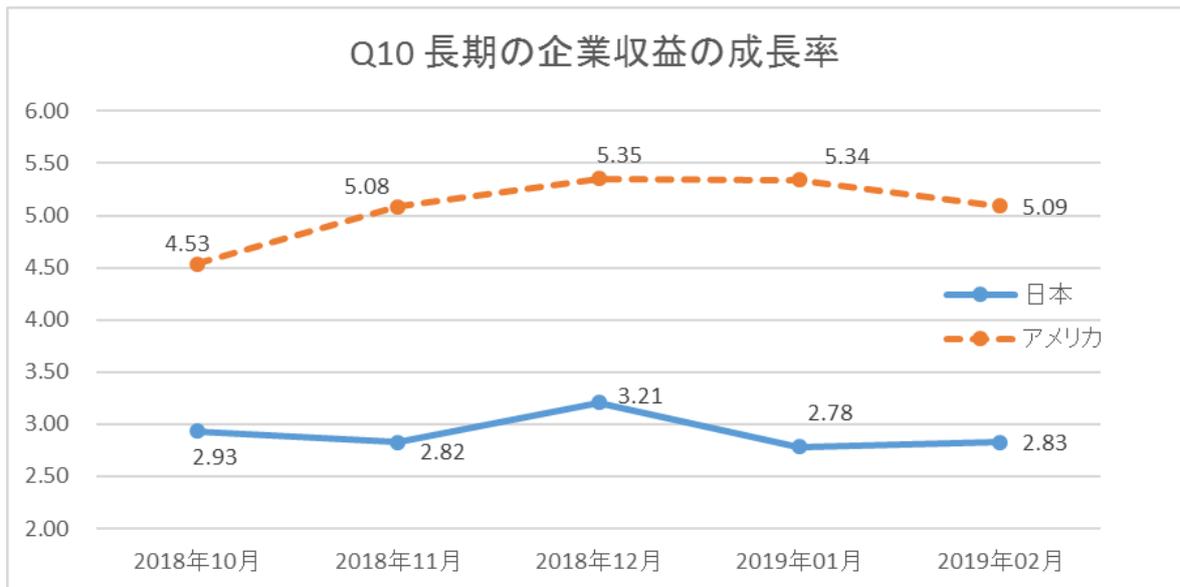


1年後の予想変化率の平均値については、NY ダウも日経平均株価も、前述の通り前回調査と比較して上方修正されていた。



4. 長期の企業収益予想

問 10. 「これから 10 年間の日本およびアメリカの企業収益の成長率は平均してどのくらいだとお考えですか。名目ではなく、インフレ分をひいた実質成長率でお答えください。」

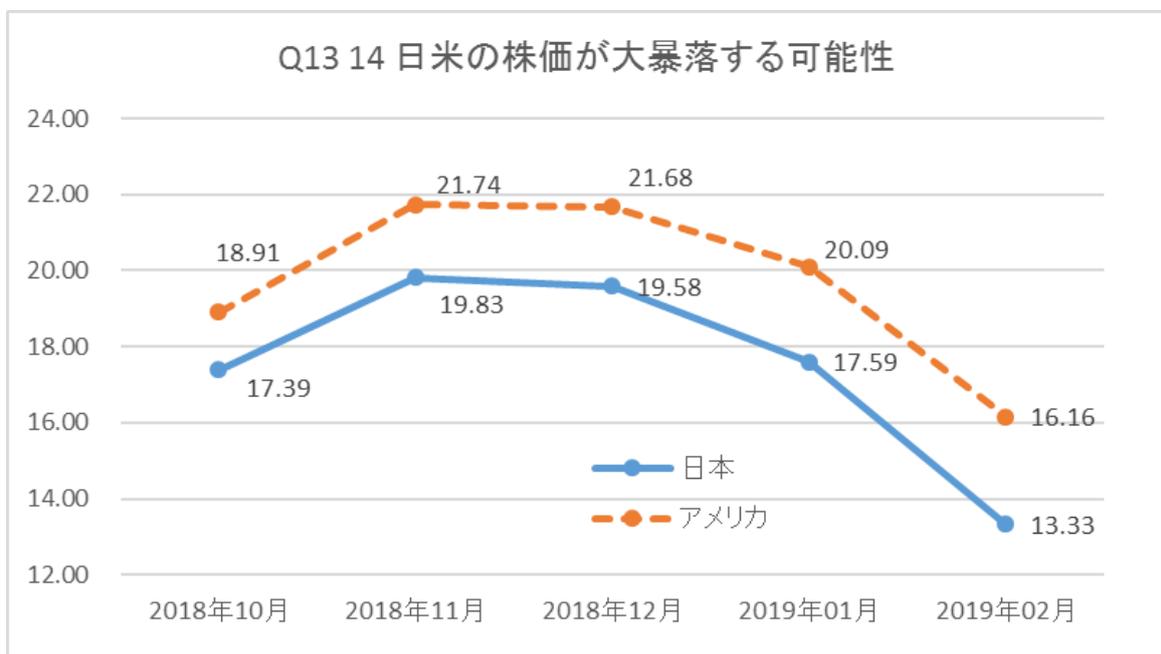


長期の企業収益の成長率については、日本は若干上方修正されていた。アメリカは下方修正されていた。

5. 日米株価の安定性

問 13. 「今後 6 ヶ月以内に、日本において、アメリカの 1929 年の恐慌や 1987 年のブラックマンデーのような株価の大暴落の起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば 0%、必ず起こると思えば 100% というようにお答えください。」

問 14. 上記の問を アメリカについて 質問。



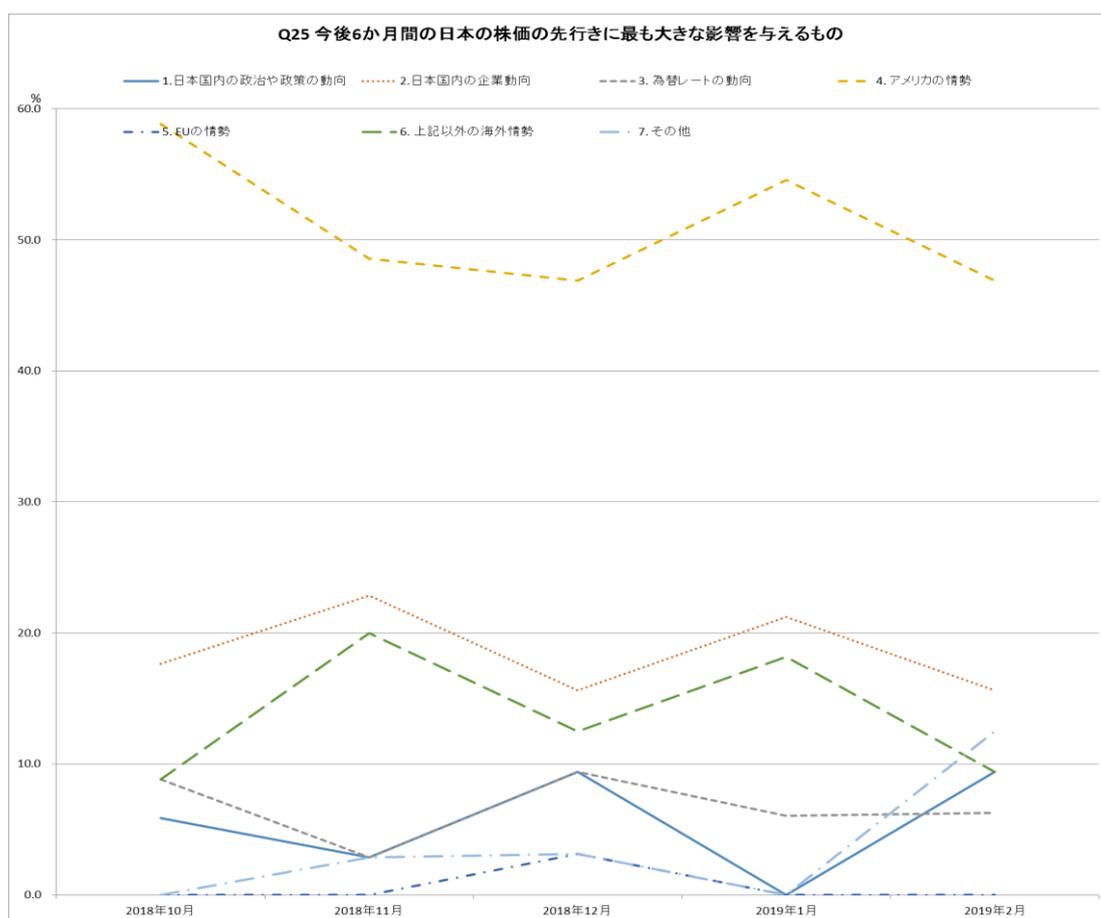
今回の調査では「株価が大暴落する可能性」は、前回調査と比較して日米ともに低下していた。

臨時（近年追加した）調査項目の集計結果

問25. 今後6カ月間の日本の株価の先行きに最も大きな影響を与えるのは、次のどれだとお考えですか。

[番号をどれか一つ○で囲んでください]

- 1 日本国内の政治や政策の動向
- 2 日本国内の企業動向
- 3 為替レートの動向
- 4 アメリカの情勢
- 5 EUの情勢
- 6 上記以外の海外情勢 _____
- 7 その他 _____



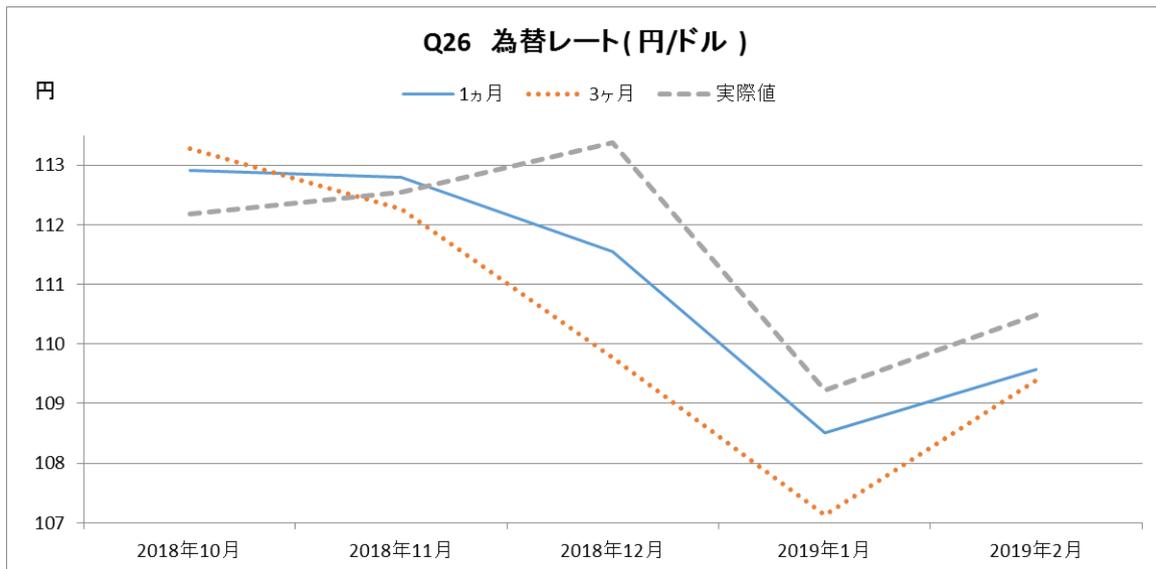
今回の調査においても「4.アメリカの情勢」の回答割合が最も高かった。

「6.上記以外の海外情勢」の回答で、コメントを公表可能としていただいたものとして「米中貿易戦争が及ぼす企業業績への影響」等をいただいた。

問26. 1ヶ月先、3ヶ月先のアメリカドル／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。

1ヶ月先 1ドル＝ _____ 円

3ヶ月先 1ドル＝ _____ 円



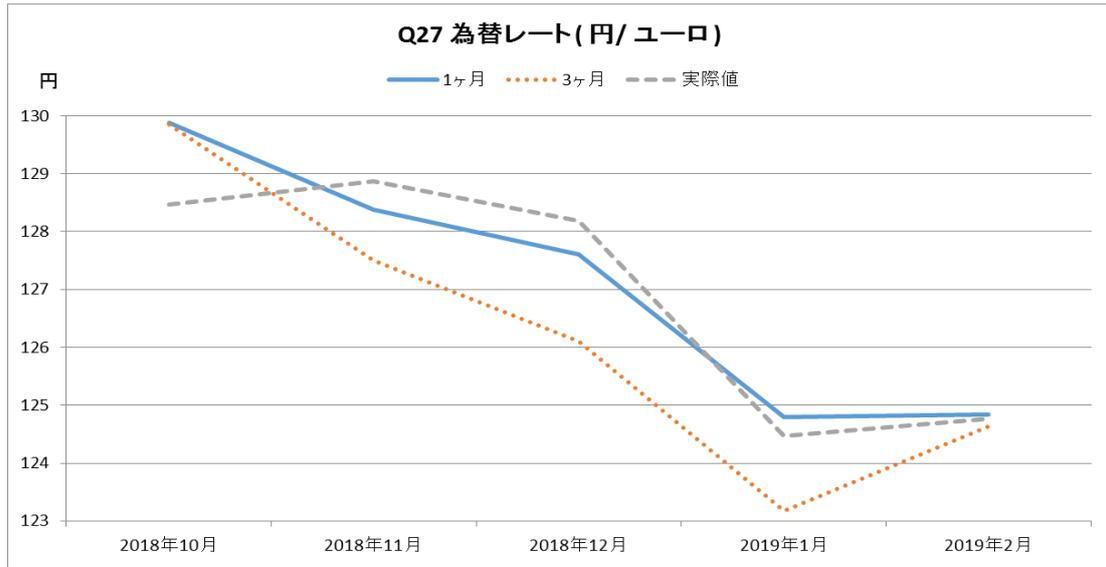
アメリカドル/日本円レートの平均回答日における「実際の値」、および1ヶ月先、3ヶ月先の予想の平均値のいずれも前回調査と比較して円安になっていた。

今回の調査においても、「実際の値」が最も円安の水準にあった。

問27. 1ヶ月先、3ヶ月先の欧州ユーロ／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。

1ヶ月先 1ユーロ = _____ 円

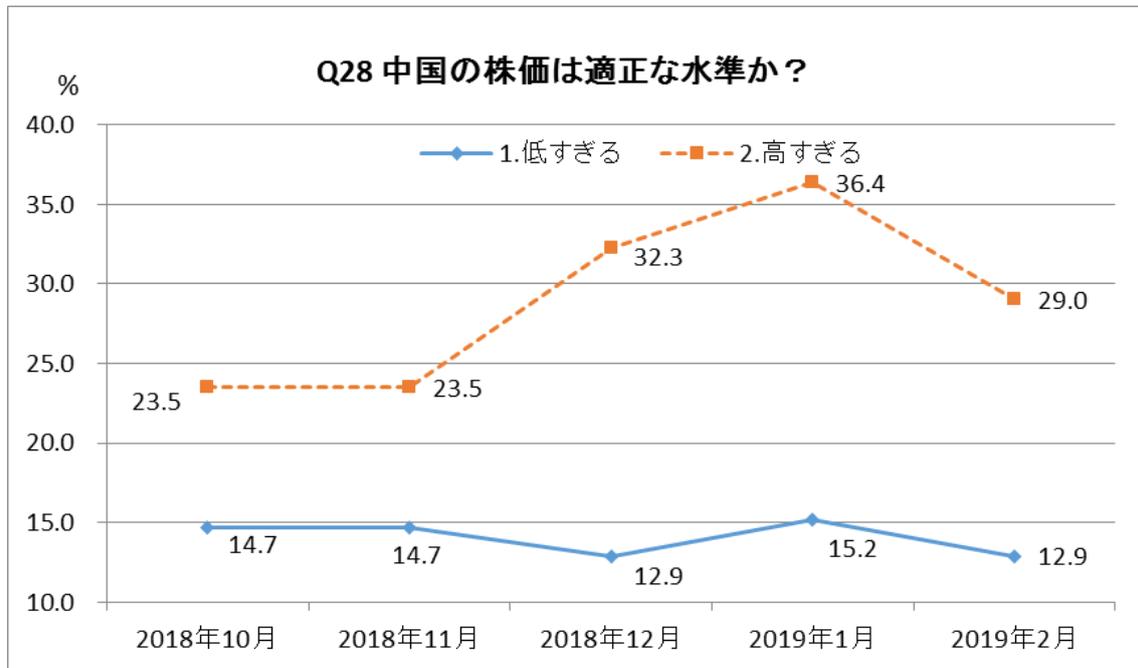
3ヶ月先 1ユーロ = _____ 円



ユーロ/日本円レートの平均回答日における「実際の値」と3ヶ月先の予想の平均値は前回の調査と比較して円安方向に修正されていた。1ヶ月先の予想の平均値は前回の調査とほぼ同じ値であった。

問 28. 中国の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、[番号をどれか一つ○で囲んでください]

- 1 低すぎる 2 高すぎる 3 ほぼ正しく評価されている 4 わからない



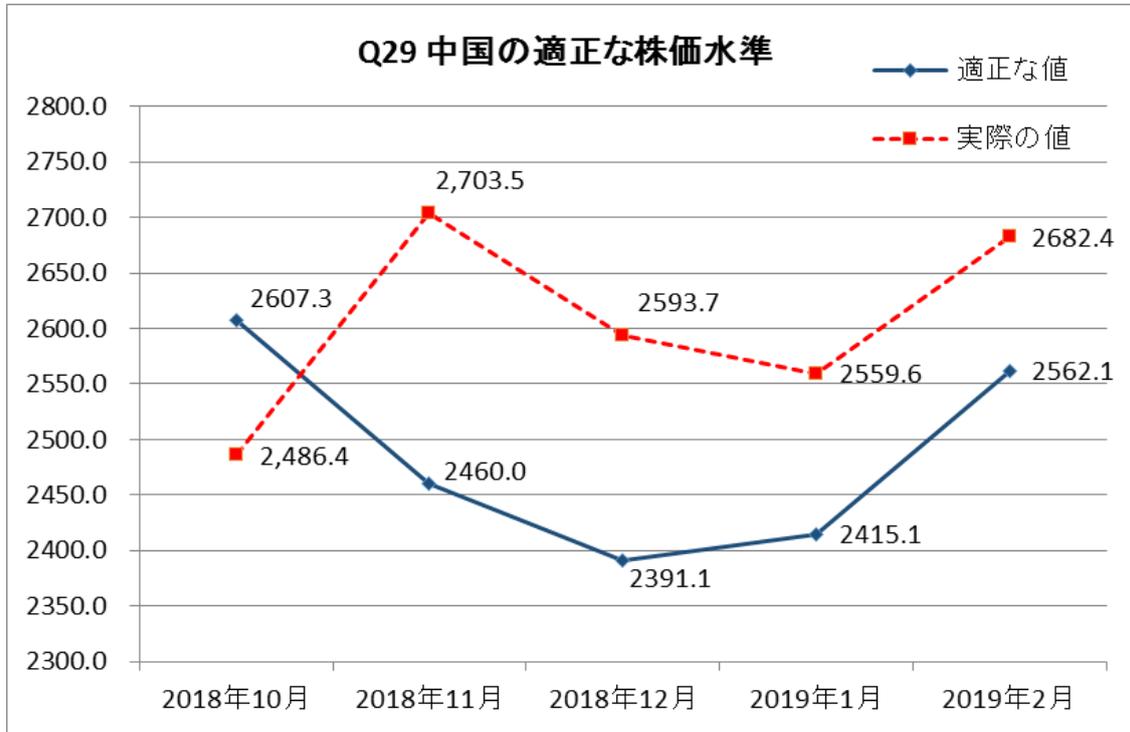
中国の株価に関する質問については「2.高すぎる」の回答割合は前回調査から低下して29.0%になった。

「1.低すぎる」の回答割合も前回調査から低下していた。

「3.ほぼ正しく評価されている」の回答割合は22.6%であり、前回調査（21.2%）からあまり変わらなかった。

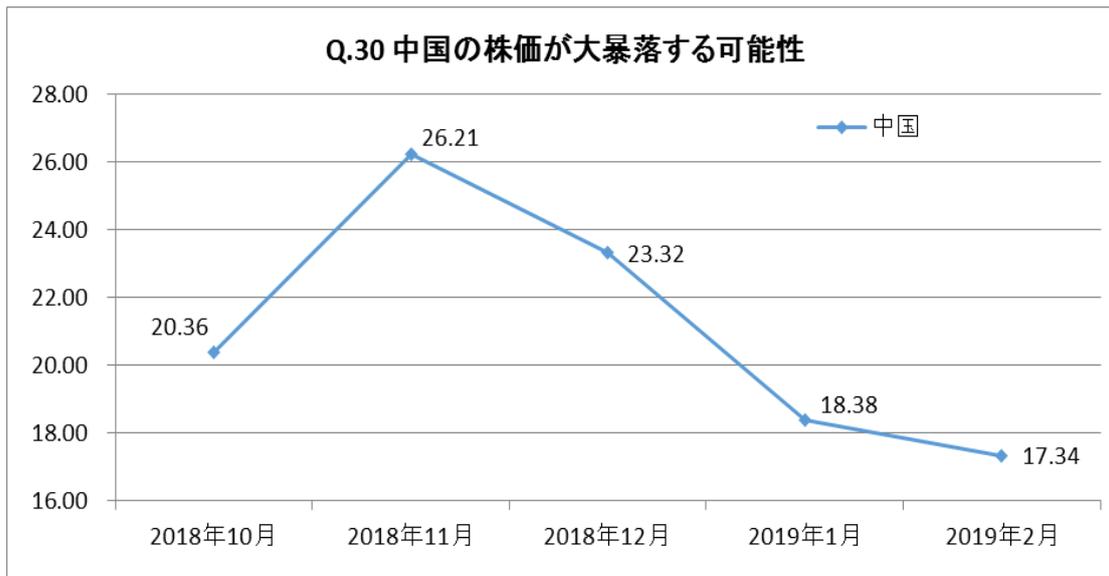
「4.わからない」の回答割合は前回調査では27.3%であったが、前回の調査から高まり35.5%であった。

問29. 中国の株価（上海総合指数）は企業の実力（ファンダメンタルズ）から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか



「適正な値」は、前回調査から上方修正され、今回の調査では、2500ポイントを上回った。平均回答日における上海総合株価指数の「実際の値」も、前回調査から上昇していた。なお平均回答日における「実際の値」は、BloombergのMarketsサイトより引用している。

問30. 今後6ヶ月以内に、中国において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落が（再び）起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。



「中国の株価が大暴落する可能性」は前回の調査と比較すると低下していた。

自由コメントの紹介（掲載可能として頂いたコメントの要約）

問3の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- 海外から投機的な動きによって価格形成が歪められている。
- 米中新冷戦、米国政治の混乱が過剰に意識された年末年始相場の反動修正が続いた

以上